

■ TOPICS

1. ごあいさつ
2. 10月13日(日) 全国薬草シンポジウムinひだに参加しました
3. 10月19日(土) 郡上企業見学会を実施しました
4. 10月20日(日) 岐阜市達目洞で稲刈りに参加しました
5. 行事案内

1. ごあいさつ

こんにちは！最近涼しくなってきましたね。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今回は、10月に行われた全国薬草シンポジウムinひだ、郡上企業見学会、岐阜市達目洞での稲刈りについて特集します。私は稲刈り参加しました。久しぶりに稲刈りをしてとても疲れましたが、楽しかったです。

詳細については以下の記事をご覧ください。（杉山）

2. 10月13日(日) 全国薬草シンポジウムinひだに参加しました

～サマースクール2019 飛騨市コース～

8月下旬に実施されたサマースクール2019inひだ、その中の飛騨市コースでは「薬草の有効活用と市民団体との交流会を考える」をテーマに、薬草料理や薬草茶を体験しながら、飛騨市の薬草について教わりました。参加した学生たちは、全国薬草シンポジウムinひだに出展するブースの提案を目標にグループ活動に取り組みました。

2泊3日の日程で実施した最終日、4つのチームからそれぞれブースの提案がなされ、最優秀賞を獲得したDチームのプラン「薬草茶ウォークラリー」を、実際に全国薬草シンポジウムで実施することになりました。



👉 さまざまな薬草料理

【サマースクール提案一覧】

- A. 薬草の離乳食
- B. 地酒と薬草の観光ツアー
- C. ハーバリウムをつくろう
- ☆ D. 薬草茶ウォークラリー

～全国薬草シンポジウムinひだ～

10月12日-13日のシンポジウムは台風19号の影響で開催も危ぶまれていました。本来なら学生と一緒に両日も参加したかったのですが、安全確保のため13日のみの参加となりました。

サマースクールでの提案「薬草茶ウォークラリー」を元に、左のような台紙を作成して「薬草茶スタンプラリー」として実施しました。

飛騨市には245種類以上の薬草が自生しており、様々なブレンドした薬草茶にも、それぞれ個性があります。薬草茶を楽しんでもらうことで、より多くの人々が飛騨市の薬草の価値や魅力を知り、親しみを持ってもらうことが、この企画の目的です。

スタンプラリーには5つの薬草茶を提供していただき、240の方が参加、112の方がコンプリートして楽しんでくださいました。（大宮）



👉 スタンプラリーの台紙

3. 10月19日（土）郡上企業見学会を実施しました

10月19日（土）、11人の学生が郡上企業見学会に参加しました。今回は「株式会社 牧歌コーポレーション」様、「株式会社 スクラム」様を見学させていただきました。あいにくの雨模様でしたがみんな熱心に見学をしていました。

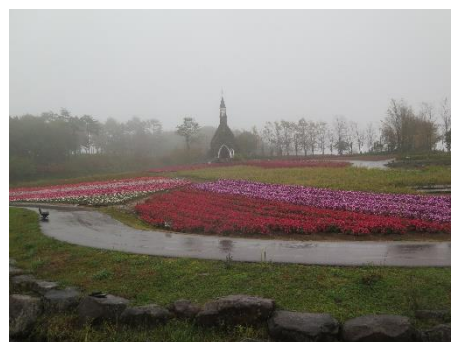
～牧歌コーポレーション～

まず伺ったのが株式会社牧歌コーポレーションが運営する「ひるがの高原 牧歌の里」。ひるがの高原SAスマートICより車で4分の好立地で、牛や羊などの動物と触れ合ったり、季節ごとの花畑を觀賞するために、ファミリー層を中心に年間約25万人もの集客を誇ります。また、毎年何メートルもの降雪があるため、最近では雪にあこがれる外国人観光客も増加しているとか。隣接した朝市で地元の野菜を販売しているほか、従業員の方も地元の人が多いそうです。

～スクラム～

ひるがの高原SAを運営する株式会社スクラムは、郡上の玄関口として、SAにきたお客様を「笑顔で迎え笑顔で帰す」ことをモットーとしています。この辺りはスキー場が多いので、その利用者や、飛騨・高山へ向かう旅行者も国籍問わず、多くの方が利用しています。全従業員の約7割、管理職の約3割で女性が活躍していることも特徴的です。また、野菜や乳製品など地元の製品を多く扱っており、地域とのつながりも深い会社です。

普段、施設を利用しても、その運営をしている人や働いている人の想いまで聴けることはなかなかないので、貴重な経験ができて嬉しかったです。（伊藤）



☞ 雨でも花畑はキレイ（牧歌の里）

☞ 「笑顔で迎え笑顔で返す」の説明中



4. 10月20日（日）岐阜市達目洞で稲刈りに参加しました

金華山の麓、岐阜市達目洞（だちぼくぼら）の稲刈りに参加しました。参加したのは全学共通教育科目「人と自然の関わりからみた岐阜（実践）」「現代環境学（ESD実践研究）」の受講生、岐阜大学公認サークルESDクオリアのメンバー、親子連れ、地域の方々など総勢50人ほど。春に田植えを行った田んぼで岐阜県の代表的な米であるハツシモを収穫しました。

達目洞は、自然豊かな地域です。最初に周辺を見学し、稲刈りの説明を十分に受けた後、鎌を使って稲を収穫しました。この田んぼは、水が溜まりやすい場所に位置しているので、機械を使っての収穫ができません。そのため1時間ほどかけて、すべて手作業で収穫しました。また、収穫した稲を束ね、乾燥させるために、はざかけを行いました。前日の雨の影響で、田んぼがぬかるんでおり、足を取られることが多く、大変な作業でした。

参加した学生からは、「初めて稲刈りを行ったので、こんなに大変だと思わなかった。この体験から、お米の大切さがよく分かった。」との声がありました。このフィールドワークでは、自然の大切さ、農業の大変さを学ぶことができました。（杉山）



☞ 全員集合！



☞ 真剣に作業中

5. 行事案内

○11月9日（土）西濃企業見学会

○12月14日（土）参加大学共通プログラム：成果発表会